

教職大学院改革特別フォーラム *Session 0*

2021年6月19日(土) 10:00-12:00

「理論と実践の融合」への企図 その現段階 (2)

教職大学院の展開をめぐる当事者としての省察と展望のために

不確定性が加速化する状況の中で避けがたい社会組織の再構成を主体的・協働的に担っていく主体として力、そしてそのために求められる学習をどのように培っていくか。状況と課題を共有する世界で進む公教育改革への企図において、そうした学習を支える教師のあり方、そして学びに関心が寄せられてきている。OECDのEducation2030、世界銀行のSABERにおいても、その焦点へのアプローチが進められている。そして日本においても3月12日の“「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について”の諮問を受け、中央教育審議会に特別部会が設置され、4月より教師教育を主題とする包括的な協議が始まっている。「理論と実践」の融合・往還を基軸に教師教育改革を先導する役割を担って出発した教職大学院の企図、そこでの実践とそれを通じた理論の真価が問われることになる。

2月に行われた実践研究福井ラウンドテーブル特別フォーラム（「理論と実践の融合」への企図その現段階）では、信州大学教職大学院における学校拠点の取り組み、大阪教育委員会が大阪教育大学との協働で進めている現職教員の研究・学習のためのセンターの取り組み、福井県教育総合研究所が進めている世代を超えて教師が実践者として学び合う研修サイクルの取り組みをめぐる実践報告を受け、理論と実践の融合・往還の具体的な展開とそれを通しての実践者としての長期的な力量形成のプロセス・デザインへの問い、そして学習観の転換を支える教師自身の学習観の転換という重要な課題が提起されてきている。

第2回目となる今回は、教師教育改革をめぐる上述のような状況と課題を踏まえつつ、「理論と実践の融合・往還」を軸とする取り組みを教職大学院・学部・学校を結んで展開している実践とそこでの具体的な学びを紹介いただきながら、学習観の転換を支える教師の長期的な学習プロセスとそれを支えるカリキュラム・組織、さらにはその評価の在り方、カリキュラム・組織の担い手の力量形成へと問いを進めていくこととしたい。

※ 6月18日(金) 午前、参加申込者宛に Zoom 接続案内をメール配信しました。

9:30 Zoom 接続

10:00 趣旨説明

福井大学 理事（企画戦略担当）・副学長 松木 健一

10:05 報告 1 : 「理論と実践の融合」をめぐる諸問題とその考察の多視的展開

兵庫教育大学大学院学校教育研究科 教授 山中 一英

10:30 報告 2 : 理論と実践の関係を問い、考え続ける教師へ

岐阜大学大学院教育学研究科 教職実践開発専攻 教授 石川 英志

10:55 報告 3 : 大学における教員養成の実情から教師教育の理念を問う

——学部教職課程との連動の様相に注目して——

福井大学大学院連合教職開発研究科 准教授 遠藤 貴広

福井大学大学院連合教職開発研究科 准教授 笹原 未来

福井大学大学院連合教職開発研究科 准教授 隼瀬 悠里

11:20 提案

福井大学大学院連合教職開発研究科長・教授 柳沢 昌一

11:30 コメント

文部科学省 総合教育政策局 教育人材政策課 教員養成企画室長 齋藤 潔

11:45 今後の展望

〈司会〉 福井大学大学院連合教職開発研究科 客員教授 寺岡 英男